

2026 アジア・アジアパラ競技大会 NAGOYA ビジョン有識者懇談会

議事概要

場 所：名古屋市公館 3階 特別会議室

日 時：令和6年9月11日（水曜日）

午前10時00分から正午

議 題：2026 アジア競技会 NAGOYA ビジョンの改訂について

出席者：資料1 委員名簿のとおり

改訂案への意見

○レガシーをどのくらいの長さで実現しようと考えているのか、少なくともこの先10年ぐらいの視点があった方がいい。その中で「アジアとともに」をどう実現していくのかのイメージを形成するのが重要だ。

○ビジョンは2019年に策定し、5年が経過している。この5年間でこんなことができ、これから先の何年間は何をしていくのかという進捗感を伝える必要がある。

○大会認知度を上げることにに関して、ただ今回の大会を知っているだけではだめで何のためにする大会なのか、名古屋に何をもたらすのかを認識してもらうことが必要。

○2026年に大会があるのでそれまでに優先度を高めて実現することで、それまでバラバラだったものがその年を契機にして完成形が表れてくる。大会を契機としてできる新しい社会的価値は何なのか。

○新たな理念「アジアの こどもの 未来の ために」について、その理念も踏まえるのであれば、名古屋の子供に大会の参加国の文化やスポーツなどの学ぶ機会などがあると新たな理念に繋がっていくので、そのような具体的な記載があると良い。

○「アジア大会」と「アジアパラ大会」は並列で考えてもらいたい、このビジョンの中でもまだ「パラ」の方向性が見えてこない。健常者の取り組みの中に障害者への歩み寄りを含んで実施していくことが両大会の開催意義にもつながる。

○障害を持つ子どものスポーツ振興・支援に関する取り組みとして障害児スポーツの推進についても記載があるべきではないか。

- 愛知や名古屋はアジアの中では知られていない。この機会を捉えて、民間組織がモチベーションを高められるような投げかけをしてみてはどうか。
- アスリートの支援について、現在もやっている「あいちトップアスリートアカデミー」だけでなく、もう一つ目玉になるような新しい支援がほしい。
- アスリートの支援について、パラアスリートの支援も追記してほしい。
- ハード面とソフト面の両方で多様性への理解の促進に取り組むとある中で、ハード面としてバリアフリーに取り組んでいるのは良いが、ソフト面として意識や理解の促進ということになった時にジェンダーの視点や男女平等参画の視点が少ないと思う。
- 選手村をやめたことについて、選手村として求められる機能があったはずだ。なくすことによってコストは下がっても、本来ならば担保しないといけない「質」をどう担保するのか。
- クルーズ船の利用について、パリオリンピックでも使っていたので、何か問題がなかったのか、対策は取られたのかなど検討が必要。
- 産業の面ではイノベーション創出のチャンスとなる。技術を他の人に知ってもらうことが大事であり、水素社会の実現に向けてどんな未来があるのかを宣伝してもらうとか、会期中にナゴヤイノベーションズガレージを活用してイベントをやってもらえれば、名古屋の起業家を海外の人に見てもらえ、意見をもらえるチャンスである。
- 気候変動対策に関する国際協力や連携の推進も重要。
- 大会開催の経済波及効果について、こういった数字は様々な状況の変化で変わっていくものなので、どの時点でどのような想定による数字なのかを書いておいた方が良い。
- 大人が読むものだけでなく、子どもや若い世代がどう関わり貢献できるかというような内容や表現があるとよい。